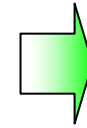
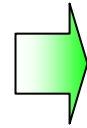
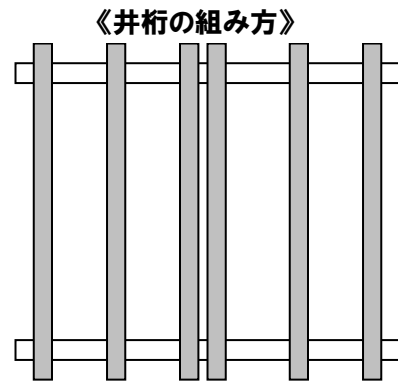


森小屋のつくり方

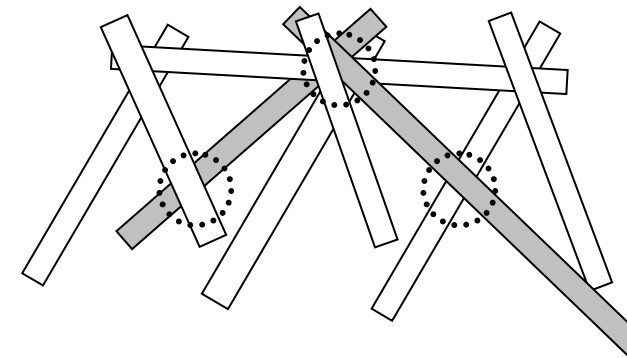
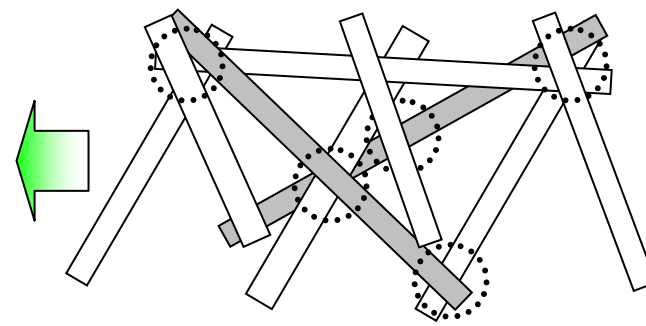
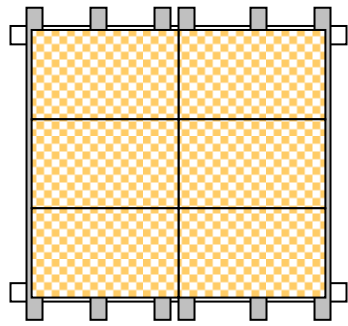


まずは、土台になる部分を作ります。木材を井桁に組み、縄で縛ります。このように6本の横木を渡すとコンパネが載せやすくなります。

次に屋根になる部分を組みます。写真のように、地面で組んで（仮止め）から起こして下を固定（仮止め）すると、楽にできます。短い木材を使うと屋根が低くなり、その後の作業も楽になります。

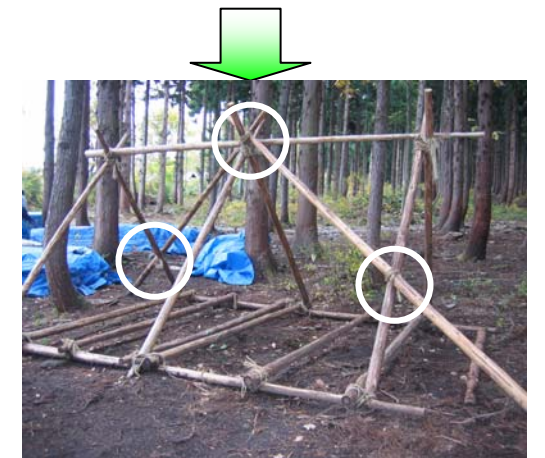
次に、屋根になる部分に横木を渡し、全体のズレを直したうえで、固定します。

《コンパネの敷き方》



— が「筋交い」 ○ が固定部分

土台の木の上にコンパネ（板）を並べていきます。長い木で土台を組むと、コンパネが6枚敷け、6人～8人眠ることができます。



このように斜めの木（「筋交い」）を入れて固定すると、小屋全体が、がっしりします。



屋根となるブルーシートを上からかぶせ、出入り口になる部分をダンボールで囲います。出入り口は子ども達に工夫させると面白いです。

【森小屋ミニ（秘密基地）】



森の中に入って低木を切り、切った木を使って小さな森小屋を作ることができます。「秘密基地」として森の中につくっても面白いです。このくらいの大きさならば屋根は、葉っぱの付いた枝やススキを使うのもいいでしょう。

【基本姿勢】

ここに示したのは、作り方の一例であり、この通り作る必要はありません。

子ども達が、**失敗しながら試行錯誤して作り上げることが大切です。**ゆとりのある**時間設定**をし、子ども達が試行錯誤して作り上げる姿を**見守る姿勢で臨む**と良いでしょう。

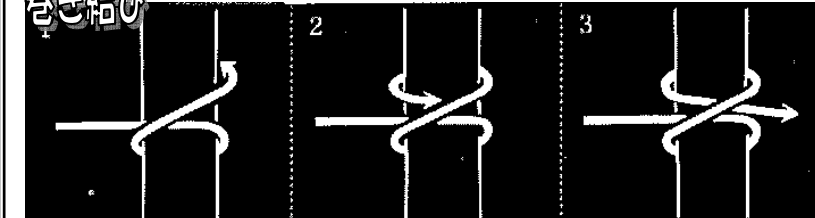
また、環境教育の面からも、**ゴミの処理についても考えさせてください。**（壊した時に出る荒縄を持ち帰り、肥料にして畑に蒔いたり、ダンボールをできるだけ使わないようにしたりする等。）

【事前指導】

以下のことを事前に行っておくと、当日の作業が短時間で済み、子ども達の主体的な活動が期待できます。

- ① 活動班ごとに、割り箸などを使って、森小屋の模型を作ってみると、イメージしやすくなります。「どういう手順で行くと作りやすいか。」「どういう形に木を組むと、しっかりするか。」など、子ども達に考えさせると良いでしょう。
- ② 縄の縛り方を練習すると良いでしょう。下のような縛り方が一番頑丈に縛れます。（図では1本の棒を使っていますが、2本～3本の棒を結ぶ練習をすると良い。）

巻き結び



完成

